さぁ、答え合わせをしよう！

vol.41　飛鳥時代（あすかじだい）②

※ココを見てね！▶調べてみよう～飛鳥時代（あすかじだい）

1.「飛鳥大仏（あすかだいぶつ）」 の大きさをしめす話が書かれています。次のうち、どれでしょうか？
　正解：②高さ2.8m（メートル）

“日本でもっとも古い仏像（ぶつぞう）”とされる「飛鳥大仏（あすかだいぶつ）」は、釈迦如来像（しゃかにょらいぞう）です。面長（おもなが）の顔やアーモンドのような目の形から、大陸（たいりく）の影響（えいきょう）が色濃（いろこ）くでていると言われています。飛鳥寺（あすかでら）は鎌倉時代（かまくらじだい）の火災（かさい）で一度はすたれてしまったため、つくられた当時（とうじ）からのオリジナル部分は目の周辺や右手中央の指3本などです。正解は②2.8m。2つ目の解説（かいせつ）に書いてありましたね。ちなみに、ラグビーのゴールポストのクロスバーの高さが 3mですから、かなり大きいということがわかりますね。また、300kg というと、大きなライオンや大きなトラ、グランドピアノなどがそれ相当（そうとう）ですので、お堂（どう）におさめるのに苦労（くろう）した、というにはちょっと小さすぎ。座（すわ）っておられるので、靴（くつ）は履（は）いておられませんよね？！

2. 日本ではじめて定（さだ）められた「年号（ねんごう）」は、何ですか？
　正解：①大化（たいか）

今ちょうど、NHKの大河ドラマで「鎌倉殿の13人」という番組が放映（ほうえい）されていますね。古墳時代（こふんじだい）の次の時代、日本ではじめての年号ですから、飛鳥時代（あすかじだい）はあれよりずっと昔の話。昭和（しょうわ）だと、みんなのおじいちゃん、おばあちゃん、あるいはお父さん、お母さんが生まれた時代なんじゃないかな？ もうわかったね。正解は、①大化（たいか）です。

3. 藤原京（ふじわらきょう）は、日本で初めてつくられた都（みやこ）です。まちの真ん中につくられたのは、次のうち、何でしょうか？
　正解：②藤原宮（ふじわらのみや）

今の時代、まちづくりは、地方（ちほう）や地域（ちいき）の役所が中心となり、どんなまちにするかといった計画（けいかく）を立て、人々の暮（く）らしに必要（ひつよう）な施設（しせつ）やサービスなどをあらかじめ組み込みます。これを都市計画（としけいかく）といいます。藤原京（ふじわらきょう）は、そうした都市計画（としけいかく）によってつくられた日本ではじめての都（みやこ）だったのです。その中心にあったのは、②「藤原宮（ふじわらのみや）」で、天皇（てんのう）が生活する「内裏（だいり）」、重要（じゅうよう）な儀式（ぎしき）や政治（せいじ）をおこなう「宮殿（きゅうでん）」、「役所（やくしょ）」などがあつまっていました。教育（きょういく）のための学校（がっこう）ができるのは、まだ先の話。また、墓（はか）をまちの中心においたという話はみあたりません。